

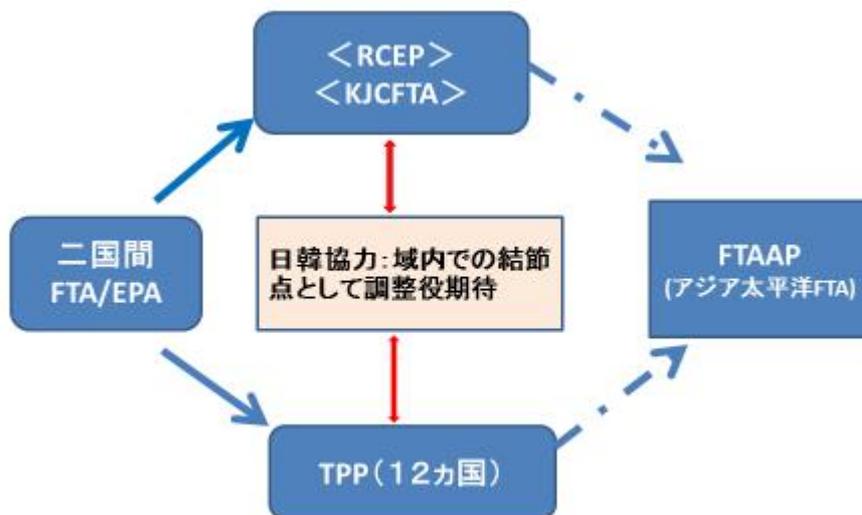
平成 27 年度環日本海学術ネットワーク特定テーマ支援事業報告書  
東アジアの経済交流の今後と富山の観光ビジネス戦略

平成 27 年 11 月 19 日（木）、国際会議場にて富山大学・研究推進機構・極東地域研究センターが開催する「東アジアの経済交流の今後と富山の観光ビジネス戦略」と題するシンポジウムが開催され、50 名余の参加者を得て、活発な論議がなされた。

まず、富山大学・経済学部の金奉吉教授から「アジア太平洋地域におけるメガ FTA と日中韓関係」が紹介された。長くぎくしゃくした関係にあった日中韓の 3 か国の関係は 2015 年秋の日中韓首脳会談によってようやく改善の兆しが見えるようになった。一方で「新常态」下の中国経済は中国の公表数字以上に悪化しているのではないかとの懸念もある。

日中韓の経済関係はいまや水平関係であるが、貿易収支で見れば、3 か国で相互補完的になっている。また日米を中心とする TPP が締結されたことから、RCEP（ASEAN+日中韓印豪 NZ）や日中韓 FTA の締結への道のりも加速されるかもしれない、また日韓は TPP と RCEP の統合と FTAAP（アジア太平洋自由貿易圏）の牽引調整役になることができる。

アジア太平洋における日本の EPA 戦略



（金奉吉「アジア太平洋地域におけるメガ FTA と日中韓関係」より）

桜美林大学の渡邊康弘教授は「一番近い外国との観光～日韓の観光はどうなるのか～」



Your complimentary  
use period has ended.  
Thank you for using  
PDF Complete.

[Click Here to upgrade to  
Unlimited Pages and Expanded Features](#)

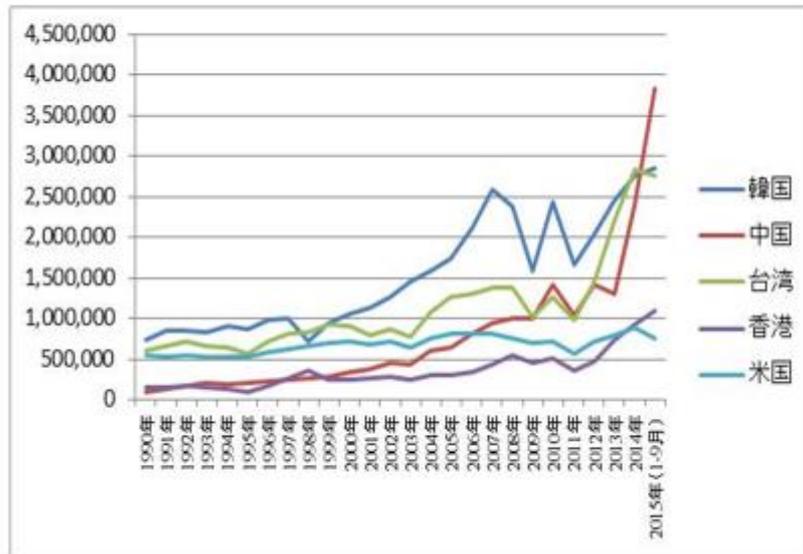
という題名の下、韓国人の訪日観光について紹介した。韓国人の訪日観光客で多いのは、20～30代で、リピーターが全体の3分の2を占め、個人観光客が6割を占める。韓国人観光客が日本観光に何を期待しているかといえば（複数回答の場合）70%以上の人が日本食と答え、次いで買い物が44%を占めている。情報源としては個人のブログなどが3割近くを占め、日本に来てからもネットやスマホで情報を集めている。このことから無料wifiの充実が観光客を集める重要な手段だという紹介があった。

続いてアジア成長研究所の戴二彪・研究部長から「訪日中国人客の観光行動と地方圏の誘致戦略」と題する講演があった。2000年には476万人だった訪日外国人観光客は2014年には1341万人となり、ビザ発給要件の緩和や円安などにより、アジアからの観光客が全体の8割にも達している。うち中国からの観光客は2000年の団体旅行の解禁以降急増し、2015年（1～9月）では訪日観光客の1位となり、年間では500万人を超えるものと思われる。

観光庁の「訪日外国人消費動向調査 2014 年年間値」によると中国人観光客の訪日中の消費額は23万円余で、うち13万円弱が買い物代となっている。これは「関係」を重んじる中国社会の「土産文化」があることと、「銀聯」などのカードで支払う習慣があるからである。なお中国人の多くは旅行中にWeChat(微信)で旅行体験を家族や友人と共有する機会が多く、この意味でもwifi環境の整備が必要である（世界各地のWeChat利用者は6億人を超える）。

地方圏の中国人客誘致戦略としては①在住中国出身者の活用による地域知名度の向上（微信を通じて「日本の××県・市」でしか見られないことや体験できることを積極的にPRする）、②地域特色を生かすブランド観光コースの開発、③ショッピングしやすい環境の整備を推進、④主要観光地・宿泊先・駅における無料wifiの普及を加速させる、という提案があった。

## 主要市場別訪日客人数の推移(人)



(戴二彪「訪日中国人客の観光行動と地方圏の誘致戦略」より)

馬駿教授の講演は「外国人観光客は何を求めて富山に来るのか?～アンケート調査に基づいて～」で、本年9月末から10月初にかけて富山空港や富山駅周辺で200人余の外国人観光客に対して行ったアンケート調査に基づいて興味深い数字が紹介された。

中国からの観光客が多かったのは女性で、20～30代の若年世代で、世帯所得は200～600万円である。一方台湾からは女性でも50～60代と若干年齢層が高く、150～300万円の世帯収入であった。これに対し、韓国からは男性が多く、40～50代の人が多かった。旅行の費用としては平均では32万円だが、うち中国からの観光客は51万円と突出して多く、しかも宿泊費を抑えて買い物の金額が多くなっている。

買い物では菓子・食品が多く、次いで薬品・栄養品となっていて、お土産としての購入が多いことがわかる。改善点としては、外国語での対応できる所が少なく、無料wifiが使えるところが少なく、またデパート・レストランなどの営業時間の短さへの不満も多かった。提言としては①名所の観光だけではなく、温泉や買い物、食事といった複合的な観光の提供、②立山黒部だけではなく、山⇔田園⇔海といった複合的な観光スポットの開発、③旅行会社だけではなく、インターネットやテレビ番組などのメディアを活用したアピールが必要なのではないかということであった。

## 国別で見る費用の最も多くかかったところ



(馬駿「外国人観光客は何を求めて富山に来るのか?～アンケート調査に基づいて～」より)

続くパネルディスカッションを前に富山県・観光課（国際担当）の水落課長より、今後の人口減少社会のなかで、外国人観光客 10 人いれば、定住者 1 人に相当すること、観光客の掘り起こしのために、海外でプロモーション活動を行ったり、他県との連携による魅力的なプランの提唱、外国語 HP の充実や「とやま観光未来創造塾」の開催など

質疑応答では、個人客の掘り起こしをどのように行えばよいか、中国の経済成長が鈍化した後でも国外旅行の増加や暴買いは続くか、国外旅行の成熟に伴って、お土産の購入が減少するのではないか、あるいは県として wifi の整備をどのように行っていこうと考えているのか、観光の広域連携の具体例についてなどの質問がだされ、回答がなされた。